



第34回日本脳神経外科学会総会のまとめ

第34回日本脳神経外科学会総会は昭和50年10月22日から24日までの3日間1,200名の会員が参加して名古屋市公会堂に於て開催された(会長 名古屋大学景山直樹教授)。

今回は先ず会長が2シンポジウム, 6パネルディスカッション, 並びに早朝セミナーの主題と夫々の座長を決定し, 演者の依頼を行った。一般演題はその後公募されたが応募は355題と例年になく多く, 止むを得ず, 1題につき夫々4名のプログラム委員に採点をお願いし, 機械的に採否の決定を行い結局一般演題は131題が採用された。

第1日目の午前はパネルディスカッション, I. 脳腫瘍の免疫並びに同II. 痛みの外科的療法, 午後にはシンポジウム, I. 間脳下垂体腫瘍, ならびにそれに関連した特別講演として Dr. Patrick Derome (Hospital Foch, Service de neurochirurgie Paris) が pituitary adenoma の transsphenoidal approach の手術成績について述べ, 次いで会長の総括発言があった。第2日目には午前パネル, III. 頸動脈海綿静脈洞瘻の治療, およびパネル, IV. 頭蓋内圧測定とその意義が, 午後にはシンポジウム, II. 脳血管攣縮について熱心な討論が行われ, そのあと今回からの新しい試みとして関連学会の紹介がなされ会場はすっかり暗くなるまで満席であった。さらに最近のトピックスである computerized tomography について現在の代表的機種である EMI, ACTA scan の紹介が Cleveland の Dr. Alfidi, Georgetown の Dr. Ledley, 及び Dr. Matsui によって行われ, 今後機種の選定を行う上で大いに参考となった。

その夜, 公会堂4階ホールで会員懇親会が盛大に行われた。名大管弦楽団の演奏によるクラシック調で始まった会は, やがてバックグラウンドもロック調に変わり, 興のおもむくままに各大学単位の競演が行われ, 愉快的な雰囲気の中に楽しい一夜を過ごすことが出来た懇親会であった。

この会期中白木糾弾共闘会議と称する約30名の集団が学会紛争を叫んで会場に乱入しようとしたが, 会員各位の協力を得て無事総会を終了させることができた。

評議員会は10月22日の講演終了後直ちに行なわれた(276名出席, 委任状提出者161名)。会長から評議員数は認定医総数680名(内5名死亡)と認定医以外の評議員12名を加えた687名であると報告された。次いで物故会員(中田瑞穂先生, 木村忠司先生, 高田博明先生)に黙禱を捧げた後, 新たに名誉会長として荒木千里, 清水健太郎両先生, 名誉会員に竹友隆雄先生, 新評議員に長谷川恒雄先生の推薦があり承認された。その後庶務会計幹事佐野教授より, 学会事務局の会計報告があり Neurologia の郵送料として1年90万の補助を行なうこと, 第34回から総会への補助を150万とすること等が報告された。次いで厚生省医療研修についての今年度の実施概要について説明があり, 更に今年9月 Oxford で行なわれた WFNS について報告があり第6回 International Congress of Neurological Surgery は1977年の6月19日から25日まで南米サンパウロで Prof. Pimentor が主催して5つの主題を中心に行なわれる旨説明があった。

関連諸学会の報告としては, 第3回小児脳神経外科研究会が今年6月14日中村紀夫教授主催のもとに行なわれ, 次回は昭和51年6月18, 19日の2日間大阪で西村周郎教授主催のもとに行なわれる予定であると報告された。脳卒中外科研究会は第4回が今年6月3日川淵純一教授主催のもとに行なわれ, 次回は51年6月26日仙台で鈴木二郎教授主催のもとに行なわれる旨報告があった。その他鈴木二郎教授から植物状態患者調査の進行状態について報告があり, 森安信雄教授からは4月18日付で外保連から脳血流検査, その他の手術等の点数が決定されたと報告され, これらの点数の改正には常々会員からのアピールが是非必要であると強調された。西本詮教授からは研究会の数が多すぎるので脳神経外科系関連研究会を出来るだけ統合して行なうようにしたい旨発言があり, 今後検討することで了解された。その他植木幸明教授から失語症の調査法についての討案が提出された。

次いで, 群馬大学川淵純一教授から次期会長挨拶があり, 第35回総会は昭和51年10月19日から22日までの4日間前橋市で開催される旨の挨拶があった。次に次々期会長の選出にうつったが, 恒例により既に全評議員

の投票により 5 名（鈴木二郎，佐野圭司，北村勝俊，半田肇，景山直樹教授）の役員候補選出委員が選出されていたのでその経過について先ず報告があり，委員会としては次々期会長として大阪市立大学西村周郎教授が全員一致で推薦された事が報告され，評議員会の上承がえられた。

次に各種委員会の報告にうつり，先ず会員資格審査会委員長の森安信雄教授から正会員 301 名，協力会員 5 名の資格審査がなされ全員合格したこと，新らしく名誉会員に推薦された竹友隆雄教授が承諾されたことについて報告があった。認定医委員会に関する報告は北村勝俊教授により行なわれた。先ず臨時に行なわれた第 9 回認定医試験は今年 2 月 8 日から 10 日まで施行され，受験者 72 名合格者 40 名であったこと，第 10 回認定医試験は 7 月 31 日より 8 月 2 日まで行なわれ，受験者 90 名中 62 名が合格し，現在の認定医総数は 675 名であると報告された。尚来年度は恒例の如く 7 月 31 日から 8 月 2 日迄認定医試験を行なう予定であること，次回から申請料を 2 万円，認定料を 3 万円とすることについて了承された。

次に機関誌編集委員会については，委員長の石井昌三教授から次の如き点について報告があった。即ち学会機関誌である *Neurologia medicochirurgica* を来年は隔月，52 年度からは出来れば月刊にしたいこと，14 巻には英文抄録は掲載せず発表演題名，所属及び演者名だけを英文でのせること，昨年度の発表のうち優れた 16 論文を選出して英文で掲載すること，(Part 2) 邦語を来年度から刊行し「神経外科」と言う雑誌名にすること，定位脳手術研究会の抄録ものせること等が提案され，承認された。

次に第 33 回総会の会計報告が前会長鈴木二郎教授によりなされ承認された。

最後に関連諸学会連絡委員会に関しては，植木委員長より特に報告する事項がないとの発言があった。

以上の評議員会での審議議決事項は 10 月 23 日の議事総会に報告され，承認を得た。

第 3 日目は午前中最後の 2 つのパネルディスカッション，V. 代償性水頭症または停止性水頭症の病態生理とその対策，同 IV. 外傷性後頭蓋窩出血及び小脳・脳幹挫

傷が行われた。

これらパネルディスカッションやシンポジウムは勿論，その他一般演題でも活発な討論が行われた。

World Neurology Congress in Amsterdamのお知らせ

The World Federation of Neurology will hold its 11th Congress from 11 to 16 September, 1977, at the International Congress Centre RAI in Amsterdam. The organization has been entrusted to the Netherlands Society of Neurology.

Main themes of the Congress are Neuromuscular disorders, Neuroimmunology, Disturbances of consciousness and cognition and Geographic factors in neurology. Internationally acknowledged scholars from all continents will present pertinent contributions in these fields. Moreover, some 900 free papers from neurologists and other well-known scientific researchers will be read. In addition new scientific films on neurological topics will be shown. During the Congress, which is expected to be attended by approximately 2500 neurologists, scientific, pharmaceutical, technical and book exhibitions will be held in the same building.

President of the Congress is Dr. W. A. den Hartog Jager, Professor of Neurology at the University of Amsterdam; Secretary-General is Dr. G. W. Bruyn, Professor of Neurology at the State University of Leiden.

The previous congress of the World Federation of Neurology took place in 1973 in Barcelona, Spain, and attracted some 2350 participants.

Please find enclosed a copy of the First Announcement of the 11th World Congress of Neurology.

Further information will gladly be given by the secretariat, c/o Holland Organizing Centre, 16 Lange Voorhout, The Hague, the Netherlands.

The Hague, 27 November, 1975